

協会ニュース

KYOKAI NEWS

■本部事務局で協会資料の刷新に着手

日本尊厳死協会は、ホームページ(HP)の機能を充実させるため、内容の見直しを始めた。これまでのHPは協会の紹介に重点を置いていたが、閲覧する方が、尊厳死の意味や延命治療の実態などを理解しやすいように工夫する。

また、希望者には200円で販売している「聞きたい 知りたい 尊厳死問答集」を改定するための作業も始めた。時とともに変化する終末期をめぐる動きを加味して、時代に合ったものにしていく方針だ。

さらに「自分らしい『生き方』と『死に方』を求めて」と題した協会制作のDVDについても、見直しの検討を始めている。

■ 表紙のことば ■

「さつきもカラオケで歌ってたのよ。『矢切の渡し』知ってるでしょ。91歳になるから、歌詞がなかなか覚えられなくてね。でも歌うのは大好きなの」

会報のフロントページがカラー化したのを機に、デザインを一新しました。いろんな場所で出会ったお年寄りの、飛び切りの笑顔です。安らかな最期を迎えるためにも、いまを楽しく生きる。幾多の喜びや悲しみを経た深い年輪が刻まれたその表情には、人生を着実に歩んできた自信とたくましさがあふれています。いつまでもお元気で、そう心に願って。

あとがき

○…その女性の気持ちは、痛いほど伝わってきた。日本尊厳死協会にかかってきた1本の電話だ。40代から50代だろうか。彼女は、明らかに言いよどんでいた。

「障害を持っている弟なんですが、リビングUIL(LW)に署名できますでしょうか？」

3人の姉弟のうち2人は日本尊厳死協会の会員で、その弟は障がい者なのだという。私は答えた。

「障がい者でも署名をすることは可能ですよ」だが、その女性は言いにくそうに打ち明ける。

「知的障がいでも大丈夫でしょうか？」

○…LWはあくまで自発的な意思による署名が前提だ。尊厳死とはいからなるもので、LWがどういう意味を持つのかを理解してもらって初めて効力を持つ。それが自己決定の原則だ。だが、付き添いや介護がなければ生活できない知的な障がい者を持つ親や家族にしてみれば

ば深刻だ。自分たちがこの世を去ったら、遺されたこの子はどうなる。

○…私は、電話口で尋ねてみた。

「LWを理解することは?」

「できません」

「だとすると、ちょっと…」

「でも、私たちが逝ってしまったら、弟はどうなるんでしょう。せめて私たちが元気なうちに代理で署名してあげたいのですが」

「お気持ちはわかりますが…」

きっと冷たいと感じたに違いない。

私自身、知的障がい児の父親だ。その息子より1日でも、いや1分でも長生きすることが、私の最大の使命だと思って生きている。その子の命の選択を、わが手に握ることは、やはりできない。(た)

会報 リビング・UIL 第151号

2013(平成25)年10月1日発行

(1月1日、4月1日、7月1日、10月1日発行)

発行所 一般社団法人 日本尊厳死協会

発行人 岩尾 総一郎

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501

電 話 03-3818-6563

F A X 03-3818-6562

メ ー ル info@songenshi-kyokai.com

ホーメページ <http://www.songenshi-kyokai.com>

郵便振替口座 東京 00130-6-16468

リビング・UIL

JAPAN SOCIETY FOR DYING WITH DIGNITY NEWSLETTER 2013年(平成25年)10月1日発行 No.151



協会の会員は12万5484人です(9月1日現在)

主な内容

- 終末期意識調査の結果……2頁
- 第2回LW研究会の案内……6頁
- 北海道でもLW研究会……14頁
- 国際派理事長、東奔西走……5頁
- 1本の電話から—認知症……12頁
- 支部のページ……14~31頁

関西 支部

支部長
長尾 和宏

住所 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-46 新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365 メール kansai@songenshi-kyokai.com
FAX 06-4866-6375 ホームページ <http://www.songen-ks.jp>

2013年 関西支部大会

日 時	10月9日(水) 13時半～16時半(13時開場)
場 所	大阪市中央公会堂中会議室(3階) ☎ 06-6208-2002 大阪市役所東隣
アクセス	地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅下車1番出口から徒歩約5分
定 員	500人(13時から受付、申込不要)
総 会	支部長あいさつ 事業報告 13時半～
特別講演会	14時～15時半



内 容 「大往生したけりや 医療とかかわるな～自然死のすすめ～」

講師 社会福祉法人 老人ホーム「同和園」附属診療所長 中村 仁一

主な著書『大往生したけりや 医療とかかわるな』『医者に命を預けるな』

懇談会 15時40分～16時半(支部理事との意見交換会)

参加費無料です。会員外の方もお誘い合わせのうえ、お気軽にお越しください。

「在宅看取りの実際」シリーズ ②



「在宅看取りの78日間」

理事・支部理事 畑中 治郎

■母は平成11年入会(当時の会員91,000人)

老々介護は今や深刻さを増しています。我が家は私の名前から「朗々介護」とし、明るい在宅介護を心がけました。母は数え年99歳で、自宅の居間、仮壇横で穏やかに息を引き取りました。

母が尊厳死協会に入会したのは平成11年、85歳の時、新し物好きの母は義姉から聴いて即入会。その後、曲折を経て京都市内のグループホームに入所したのは95歳、4年間お世話になりました。

■骨折入院、手術・人工的栄養補給挙措、退院決意

昨年8月8日に大腿骨頸部(だいたいこつけいぶ)骨折と診断され入院。主治医は骨折部位の手術を勧めました。「自力

歩行の可能性は50%、リハビリにかなりの努力を要する」との説明に悩み、「母上なら手術に踏みりますか」と尋ね返したところ、黙して答えは無く、最終的に私が決断し手術を断りました。

入院して3日目に発熱。誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)です。酸素マスクが着けられ、暴れるからと両手にミトン、マスクがずれないよう顔中テープだらけの母。主治医からは胃ろう施行の手術も勧められました。

LWについては理解されたものの、病院にいる限り治療をしないわけにはいかないと言明。点滴や、褥瘡(じょくそう:床ずれ)が辛そうな母をみて退院を決意しました。ところが、看取るために退院するのは殺人行為だと退院は認められません。話し合いを重ねグループホームの訪問診療医が続いて診て下さることで8月27日に退院。カテーテル一切を外し自宅のベッドに落ち着きました。病院から出れば絶命すると通告されており、初回診察までの3日間は、緊急連絡体制です。訪問診療医も

非常に心配しておられましたが、なんとか持ちこたえました。

■氷片で摂食、1日当たり100Kcal

食事は1日重湯50cc、澄まし汁・味噌汁30ccすべて凍らせ小片にしました。白ワインはスポットで。1日何回にも分けました。訪問診療医には「寝たきりの高齢者の基礎代謝である100kcalは確保されているでしょう。不足分は今まで蓄えた体内脂肪を消化していくから大丈夫」と言われ安心しました。入院中にできた背中や手足の褥瘡が治っていくには驚きました。

10年前、義母の看取りでお世話をしたLW受容協力医師から「氷片は、口の中でゆっくり溶けていくから誤嚥にならず、寝たきりの高齢者の水分補給には最適。手当とはtapping、手を当てて血行を良くすること」と教わった事を参考に実行しました。

■仮壇横のギャルズバー

容体も安定し、私、妻、娘の3交代24時間看取り体制にも余裕が出て、母との会話で笑えるようになりました。仮壇横のベッドにサイドテーブルを置きギャルズバーを開設、時には水割りの氷を母の口に含ませ「母戻り夜長楽しむ介護酒」と詠みました。入院時には考えられなかったほど母も穏やかになり、幼いころの話をたっぷりしゃべり、会話は弾みました。看取りを楽しむことができたのは自宅だったからでしょう。

■死について解説した家庭医学書は皆無

退院して1か月を過ぎると、母は3日寝て3日起き続けるようになり、このリズムを理解するまでに右往左往しました。死にゆく過程を書いた家庭医学書は皆無だからです。死亡直前には、血中酸素低下、下顎呼吸(かがくこきゅう)などと聞いていますが、素人に判断は無理。ティッシュペーパーを口元に当て「まだ生きているよ」当番の私が言うと、「なんや騒がしいな、お腹すいたよ」と母が応える、そんな日々でした。

77日の夕食後、吐血したものの変わりなく、翌早朝、苦しい様なので口付で痰を吸い取りました。前夜の吐血は死の兆候だったのかも知れません。ヘルパー到着後3人でシーツ交換、母が挨拶の後、着替えの最中に眠るように息を引き取りました。

■天寿を全うした母

平成24年11月12日8時30分医師に連絡、9時に死亡が確認されました。死因は老衰。母は天寿を全うすることができました。私、妻、娘は、医師・看護師と抱き合って感動を共にしました。母の願い通り、自宅での看取り、尊厳死が実現できたのです。

■医師の見解は賛否両論

ところで、100kcalの摂食について2人の医師に聴きました。

- ①男性外科医:必要な栄養を与えず餓死に追い込み、保護義務、扶養義務放棄だ。リハビリが無理ならベッドを起こして600Kcal摂食させる、これが最低限度の基礎代謝、医学の常識。吸痰器があり肺炎症患者の口付け吸痰等もっての外。②女性内科医訪問診療の医師が了とすれば問題ない。仏教で言う「即身成仏」と称賛。このように医師の見解は様々です。

■自宅の看取りは訪問診療医次第

自宅での看取りは私にもできました。家族を軸に訪問診療医、ケアマネージャーに相談すれば在宅看取りは可能です。胃ろう等の人工的栄養・水分補給に心が揺れるものもあるでしょう。その時はLWに自署した状況を思い出してください。尊厳死の実現がかなうことを願っています。

初出:大阪府立大手前高校同窓会、第170回金蘭会セミナー。講演要旨に加筆。

支 部 ニ ュ ー ス

1 「サロン」ご案内

・毎週火曜日の13時～16時 事務局に役員が出ています。お気軽にお立ち寄り下さい。お茶を飲みながら、尊厳死のこと、終末期のこと、終活のこと等おしゃべりしませんか。会員外の方もどうぞ。

2 尊厳死に関する講話「出前」します(無料)

・講師を派遣します。申込はホームページ(HP)から申込書をダウンロードしてFAX(06-4866-6375)までお送り下さい。過去5年間の実績がHPにあります。ご参考に。

3 サポーター募集

・支部の各種行事、広報等のサポート。ご希望の方は事務局にお問い合わせ下さい。

4 会報へ 投稿、お待ちしています

- (1) 尊厳死協会入会の動機
- (2) 看取りの体験談
- (3) 講演会や出前講座での感想
- (4) 平穏死、自然死などに関する本を読んでの感想等
テーマは自由。400字以内。住所、氏名、年齢、電話番号(問合せ用)を明記してFAX又はメールで支部事務局まで。誌面での掲載は府県名のみ。ホームページに掲載の場合もあります。採否は事務局に一任願います。

5 支部役員人事(2013年5月26日)

- ・新理事 竹内 奉正
(奈良・ネクステージ研究所所長)
・西村 渡(大阪・弁護士)